

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

2015.2.15

NO.221

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|---|--|
| ■ 学会賞2 | ■ 国際交流委員会だより10 |
| 学会賞規程の変更、功労賞（新設）
のご案内 | 国際学会開催情報
ICASE ニュースレターの発行 |
| ■ 年会3 | 2015 国際セミナー
国際学会参加報告（21） |
| 第 39 回年会開催案内（第 3 次） | ■ 若手活性化委員会だより13 |
| ■ 調査研究・学术交流6 | 研究会実施報告
第 39 回年会：若手ワークショップと
若手懇親会のお知らせ |
| 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）
第 20 回シンポジウムのお知らせ | ■ 編集委員会だより14 |
| ■ 研究会・支部だより 7 | 2014 年度第 1 回編集理事会報告 |
| 2014 年度研究会開催のお知らせ | ■ 広報委員会からのお知らせ15 |

学会賞規程の変更、功労賞（新設）のご案内

一般社団法人日本科学教育学会では、科学教育に関する研究を推進・奨励するために、大塚賞、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞、科学教育実践賞、並びに年会発表賞の各賞を設け、会員による推薦に基づいて受賞者を選定しています。

このたび、当法人の管理・運営を通じて学会活動の充実・発展に寄与した会員を表彰するための「功労賞」を新設することになり、そのための準備を進めています。また、功労賞の新設に併せて、従来の学会賞規程の見直しも進めています。特に、学会賞の推薦は他薦のみとすること、奨励賞の対象者の年齢について受理の時点で「39歳以下」とすることなどが、規程変更のポイントです。

2015年度の学会賞各賞（年会発表賞を除く）については、平成27年5月20日までに募集する予定ですが、推薦要領は次号のレターでご案内します。特に、新設される功労賞については、平成27年3月14日開催予定の理事会で承認されてからの募集となりますが、それに先だって賞の新設のご案内をさせていただくことにしました。

現行の学会賞各賞については、学会サイトの学会賞表彰規程をご参照ください。

学会賞担当理事（三宅、清水）

第 39 回年会 開催案内 (第 3 次)

1. 年会テーマ：学びの原点への回帰 ―新時代に対応した科学教育研究―
2. 日程：2015 年 8 月 21 日 (金) ～23 日 (日) (3 日間)
3. 会場：山形大学 (小白川キャンパス)
(〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12)
<http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>
4. 主催：日本科学教育学会 (後援：未定)
5. 年会実行委員会：[実行委員長] 今村哲史
[実行委員] 市川 啓、鈴木宏昭
6. 連絡先：日本科学教育学会第 39 回年会実行委員会
〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12
山形大学地域教育文化学部 今村哲史
7. 内容：次の内容を予定
 - (1) シンポジウム
テーマ：「イノベーティブ人材育成を実現する科学教育」
 - (2) 課題研究発表
 - (3) 一般研究発表
 - (4) インタラクティブセッション
例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場である。
 - (5) その他の企画：総会、懇親会、若手活性化委員会と連携した企画、各種会合など※年会のタイムテーブルは、2015年3月14日 (土) の理事会以降に年会Webサイトにて公開予定。
8. 発表申込等について
 - (1) 課題研究発表の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とする。企画をお持ちの方は応募願いたい。
<スケジュール> (例年よりスケジュールが早まっておりますのでご注意ください。)
・企画受付締切：2015年4月26日 (日) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】
・受理審議：2015年4月27日 (月) ～4月30日 (木) 【年会企画委員会】

- ・審議結果報告：2015年5月1日（金）【年会企画委員会 → オーガナイザー】
 - ・原稿提出期間：2015年5月18日（月）～6月15日（月）【オーガナイザー → アップロード】
- ※6月15日は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（Webページからアップロード）する期限であるため、注意されたい。

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究のWeb ページからダウンロードして、必要事項を記入の上、電子メールにて送信すること。

<企画応募先>

jsse-kadai [at mark] freeml.com

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければならない。
- ・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定すること。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできない。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定してほしい。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入すること。指定討論者については、重複を認める。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問わない。ただし、非会員による発表件数は、原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとする。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込むこととする。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されない。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議する。なお、受理された企画であっても、受理後に登壇者の変更がなされ、非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合、受理が取り消される場合もあるので、留意願いたい。

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

<申込及び原稿提出の期間>

2015年5月18日（月）～6月15日（月）

※申込と原稿提出を同時に行うこと。

※期日等に変更が生じた場合は、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知する。

<申込及び原稿提出方法>

申込者が直接、申込用の Web ページからアップロードすること。

詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従うこと。

<資格・登壇可能件数>

登壇者は会員でなければならない。

登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件である。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇することができる。

<発表時間>

一般研究発表の持ち時間は20分（発表15分、質疑・討論5分）である。インタラクティブセッション

ンは2時間の発表時間を設定する予定である。

※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味する。ただし、各種発表の申込締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、各種発表の申込締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とする。

9. 若手ワークショップと懇親会

若手活性化委員会主催にて、年会企画委員会とタイアップして、年会初日の午後から夕方に若手ワークショップと懇親会（旧若手の会）を計画中。詳細は、現在、検討中である。

教科「理科」関連学会協議会（CSERS）第20回シンポジウムのお知らせ

*日時・会場：2015年5月16日(土) 13:00～ 化学会館ホール

*テーマ：小・中学校間での系統性を重視した連携を考える

*プログラム

基調講演

講演者 清原洋一氏（文部科学省初等中等教育局主任視学官）

シンポジウム

シンポジスト

小学校関係者：未定（小中連携の実践者）

中学校関係者：山口晃弘氏（品川区立小中一貫校八潮学園校長）

教育学研究者：隅田学氏（愛媛大学教育学部准教授）

CSERS 議長経験者：伊藤卓氏(第5代議長)

<趣旨>

現行教育課程では、学習指導要領解説理科編に内容構成の図が記載されており、多くの先生方から評価する声があがっている。また、小・中学校の各段階で主として育成すべき問題解決能力については、今回小学校第6学年で「多面的な見方」が「推論」に改訂され、中学校では小学校からつながる形で「分析・解釈」が新たに示されるようになった。一方、小・中学校間では各地で連携が図られるようになり、相互に授業を見学したり、互いの児童生徒を相手に支援したりする活動が行われている。

そういった中で、小学校からは「中学校の授業に子どもの考えが反映されていない」、「小学校で培ってきた考え方が生かされていない」など、中学校から小学校の授業に対しては「何を教えようとしているのかははっきりしない」、「仮説や考察は予想やまとめに過ぎないのではないか」といった意見を耳にすることがある。今回のシンポジウムでは、小・中学校の連携が重視されるようになった理由を基礎に、小・中学校それぞれの授業に対する考えを出し合い、どうしたら充実した連携となり、系統性がより一層担保されるかを、次期教育課程も念頭に置き、建設的に考えていきたい。

（調査研究・学術交流担当理事 荻原、清水）

2014 年度研究会開催のお知らせ

2014 年度研究会の開催に関しては、下記の通りです。なお、案内及びプログラムなどの詳細については、学会ホームページに順次掲載するので、ご覧ください。なお、研究会での発表資格を持つのは本学会正会員および学生会員です。単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含む必要がありますのでご注意ください。

(1) 2014 年度第 5 回日本科学教育学会研究会 (南関東支部開催)

[テーマ] 役立つ・わかる・面白い理科(科学)の授業

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2015 年 3 月 7 日(土) 10:00~17:30

[会場] 桐蔭横浜大学 中央棟 C413 教室

〒225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[問い合わせ先] 2014 年度第 5 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員:

hirata[at mark]u-gakugei.ac.jp 平田昭雄 (東京学芸大学)

[発表申込] 発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員: 平田昭雄 (東京学芸大学) までお送りください。

発表申込締切は、2015 年 1 月 7 日(火)です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付締切は、2015 年 2 月 7 日(土)です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 南関東支部長 鎌田正裕 (東京学芸大学)

(2) 2014 年度第 6 回日本科学教育学会研究会(四国支部開催)

[テーマ] 自立的な学びを支える科学教育／一般

[日時] 2015 年 5 月 9 日(土) 10:00~16:30 予定

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2015 年 5 月 9 日(土)

[会場] 香川大学 幸町キャンパス 研究交流棟 5 階研究者交流スペース

〒760-8521 香川県高松市幸町 1 番 1 号

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[発表申込] 発表者は本学会員のみであり、発表予定者が現在会員でない場合は、発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していることが発表の条件になります。

単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記したE-mailを 企画編集委員：林敏浩（香川大学）まで送ってください。

メール送付先：*hayashi [at mark] eng.kagawa-u.ac.jp* 林 敏浩（香川大学）

[発表申込締切] 2015年3月14日（土）です。

[原稿提出] 発表原稿様式等については、発表申込があった方にE-mailにてお知らせいたします。

[原稿提出締切] 2015年4月3日（金）です。

多数の方々の申し込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 秋田美代（鳴門教育大学大学）

(3) 2014 年度第 7 回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

[テーマ] 科学教育教員養成と理科・数学の授業

[主 催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日 時] 2015 年 5 月 16 日（土） 10：00～17：00

（プログラムの詳細は後日決定します）

[会 場] 群馬大学 教育学部 C 棟 203、206 教室（群馬大学荒牧キャンパス）

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧 4-2

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[担 当] 群馬県支部長 西谷 泉（群馬大学）

[申込み・原稿送付先] 2014 年度第 7 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員

masuda [at mark] gunma-u.ac.jp 益田裕充（群馬大学）

[発表申込・原稿締切について]

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を企画編集委員：益田裕充（群馬大学）までお送りください。

発表時間は 12 分、質疑応答 3 分、計 15 分を予定しています。なお、発表者は当日パソコンを持参してください。プロジェクタ・スクリーンは準備しております。

発表申込締切は、2015 年 3 月 20 日（金）です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付締切は、2015 年 4 月 13 日（月）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北関東支部長 人見久城（宇都宮大学）

(4) 2014 年度第 8 回日本科学教育学会研究会 (中国支部開催)

[テーマ] より良い社会づくりに向けた科学教育の実践と研究

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[後援] 鳥取県教育委員会 (予定)、鳥取市教育委員会 (予定)

[日時] 2015 年 5 月 30 日 (土) 10:00~17:00

[会場] 鳥取大学 鳥取キャンパス

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

[発表申込] 発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 2014 年度第 8 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：前波晴彦 (鳥取大学) までお送りください。

maenami [at mark] cjrd.tottori-u.ac.jp 前波晴彦 (鳥取大学)

発表申込締切は、2015 年 5 月 1 日 (金) です。

[原稿提出] 発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。

原稿提出締切は、2015 年 5 月 8 日 (金) です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 藤井浩樹 (岡山大学)

(5) 2014 年度の研究会開催予定

2014 年度 5 月以降の研究会の開催については、次の通りである。

・2014 年度第 9 回日本科学教育学会研究会(東海支部開催)

[日時] 2015 年 6 月下旬 (計画中)

国際学会開催情報

今後、下記の4つの国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

1) EASE (East-Asian Association for Science Education) Conference 2015

開催地：Beijing Normal University, Beijing

期間：2015年10月16日～18日

締切等：今後順次発表予定

<http://new.theease.org/>

(愛媛大学教育学部・隅田学)

2) PME (International Group for the Psychology of Mathematics Education)

開催地：オーストラリア、タスマニア・Hobart

期間：2015年7月13日(月)～7月18日(土)

締切等：2015年3月6日 (Short Oral Communications, Poster Presentations, Discussion Groups, Working Sessions のプロポーザル投稿締切)

2015年3月22日 (Early Bird 参加申込期限)

プログラムなどの詳細については、今後、下記のPMEのホームページに掲載される予定である。

<http://www.pme39.com/>

(鹿児島大学教育学部・山口武志)

3) E-Learn (World Conference on E-Learning) 2015

開催地：Kona, Hawaii

期間：2015年10月20日～23日

締切等：2015年5月22日 (プロポーザル投稿締切)

2015年9月8日 (Early Bird 参加申込期限)

<http://www.aace.org/conf/elearn/>

4) ICCE2015 (The 23rd International Conference on Computers in Education)

テーマ：Transforming Education in the Big Data Era

開催地：Hangzhou, China

期間：2015年11月30日～12月4日

締切等：2015年5月12日 (プロポーザル投稿締切)

2015年8月4日 (査読結果通知)

2015年8月20日 (カメラレディ原稿締切)

<http://icce2015.zjut.edu.cn>

(専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男)

ICASE のニュースレターが発刊されました

ICASE (International Council of Association for Science Education)の新しいニュースレター (2014年12月～2015年1月号) が発刊されました。

http://www.icaseonline.net/newsletter/icase_12_01_2015.pdf

(愛媛大学教育学部・隅田学)

<2015 国際セミナー> ドイツの科学教育

Bremen 大学で化学の教授法を専門にしている Prof. Dr. Ingo Eilks (Vice President of International Society of Educational Research) を千葉大学 (西千葉キャンパス) にお迎えして、以下のようなセミナーを開催します。

(ただし、英語での講演で通訳なし、タイトルの変更可能性があります)

<事前申し込み不要・参加費無料>

- ・日時：2015年3月17日(火)-18日(水)
- ・会場：千葉大学教育学部 2207 教室
- ・主催：サイエンススタジオ CHIBA
- ・後援：一般社団法人日本科学教育学会
- ・プログラム

3月17日(火) 10:00-12:00

Current Problems and Trends in German Science Education

---同時開催 14:00-16:30 放射線科学教育講演会

- ①日本での放射線教育の現状
- ②日本における放射線健康リスク科学教育
- ③ドイツ科学教育における放射線教育

3月18日(水) 10:00-12:00

Education for Sustainable Development: Science Education in Germany

詳細については、サイエンススタジオ CHIBA の HP <http://ssc.e.chiba-u.jp/> に掲載されます。

(千葉大学教育学部・山下修一)

2014年11月25日～27日の日程で、シンガポールのNanyang Technological University内にあるNational Institute of Education (NIE)において、International Science Education Conference (ISEC) 2014が開催されました(主催:NIE)。この大会には、6大陸に渡る35カ国から、270名を超える発表者が参加しました。参加者のバックグラウンドは、研究者、学校教員、学生、企業関係者等、多岐にわたり、熱心な情報交換が行われました。

学会テーマは、“Pushing the boundaries: Investing in our future”であり、以下の7つのストランドが設定され、口頭発表、ポスター発表、シンポジウム、ワークショップが行われました。1) Professional development & teacher education, 2) Assessment & evaluation, 3) Science in informal settings, 4) Science teaching & learning, 5) Curriculum & policy, 6) New media & technologies, 7) Science literacy & nature of science。

一般発表の合間に、以下の5件の招待講演も行われました。1) “From lists in pieces to coherent wholes: revisiting the nature of science education” (Sibel Erduran, University of Limerick, Ireland), 2) “Feelings for science education- close encounters of the emotional kind” (Steve Alsop, York University, Canada), 3) “Research approaches to using multiple representations in science education” (Hsin-Kai Wu, National Taiwan Normal University, Taiwan), 4) “Exploring student reasoning” (Vicente Talanquer, University of Arizona, USA), 5) “The convergence between science environmental education” (Justin Dillon, King’s College London, UK)。

さらに、大会前日には、追加料金の支払いで参加可能となる以下の4件のプレ・カンファレンス・ワークショップが実施され、ワークショップ講師及び参加者との交流が図られました。1) “Teaching and learning modeling in school science” (John K. Gilbert, King’s College London and The University of Reading), 2) “Inquiry learning in technology-enhanced learning environments” (Hsin-Kai Wu, National Taiwan Normal University, Taiwan), 3) “Argumentation in science teaching and learning” (Sibel Erduran, University of Limerick, Ireland), 4) “Bringing the best of formal and informal science learning together” (Justin Dillon, King’s College London, UK)。

口頭発表は、発表20分、質疑応答5分、発表者交代5分というタイムスケジュールで行われました。発表者は、5,000文字から8,000文字の論文の提出が認められ、論文はプロシーディング集に掲載されました。論文提出者の中から論文賞受賞者が選ばれ、授賞式も執り行われました。

本大会は、毎年定期的開催されるわけではないようです。本大会のウェブサイトがまだ閲覧可能(平成27年1月29日現在)であるため、参考までに以下にURLを掲載いたします。

ISECのホームページ: <http://www.isec2014.org>

(千葉大学教育学部・大寫竜午)

研究会実施報告

活力ある若手の存在は社会でも学会でも欠かせない。本学会では、従来より年會に合わせて「若手の會」が開催されている。学術的な交流を通して互いをさらに刺激しあう場を提供したいとの思いで、若手活性化委員会をこの度立ち上げた。そして、本委員会企画の初めての研究会を第3回研究会として、12月13日に神戸大学発達科学部にて開催した。

初めての試みということで、そもそも若手会員は学会に何を求めているのか、若手会員にとって魅力ある発表の場とは何か等、ご多忙のところ委員を引き受けていただいた方々と議論した。メールでの集中的な検討はもとより、幹事団を中心に深夜まで杯と議論を重ねることもあった。その場にいる全員が積極的に参加できるようにするため、当日の研究会プログラムは、ポスター発表、班ごとの振り返りのディスカッション、wrap-up と短時間ながらも中身の濃い内容になるよう設計した。また、若手ボランティア制度を新たに創設し、応募してくれた学生の方々には研究会運営に積極的に関わってもらえるようにした。

開催までの日数が少ない、よって広報の時間が十分取れないなどの心配はあったが、発表19件、参加者42名と当初の想定を大きく上回る盛況となった。ボランティア制度にも、5名の方が応募してくれた。委員会として大変喜ばしかったのは、ここに来て多くの方と知り合えた、普段できないような中身の濃い議論ができた、という参加者からの反応であった。次回も参加したいという声も多数いただいた。論文の質も大変高く、委員による事前評価と参加者全員の投票によるベストプレゼンテーション賞は接戦となり、奥本素子さん（総合研究大学院大学）と宮田和美さん（創価大学教育学部）が選ばれた。今後も定期的開催される予定なので、多くの若手の方々に、発表者、ボランティアとしてご参加いただきたい。

最後に、本研究会の準備に奔走していただいたみなさまに感謝いたします。なお、本研究会の様子は以下のURLでご覧いただけます。

<https://www.facebook.com/jssekenkyukai3atkobe>

（北海道大学情報科学研究科 杉本雅則）

39回年會：若手ワークショップと若手懇親會のお知らせ（若手活性化委員会企画）

39回年會（山形大学 8/21-8/23）に合わせて若手ワークショップと若手懇親會を開催する予定です。日時は、8/21（金曜日）の夕方を予定しています。若手ワークショップ（4:00～6:30）では、研究手法やキャリア形成をテーマとした参加型のイベントを企画中です。イベントの中には、若手研究者の方々が交流したり情報交換したりするための時間も設けたいと考えています。その後の若手懇親會（7:00～）では場所を移して、山形の美味しいお酒と料理を楽しみつつ、さらに対話を深めていければと思います。今後、HP等を通して最新情報を発信していきますのでご覧ください。8/21（金曜日）の夕方からのスケジュールを是非、確保しておいてください。

（茨城大学人文学部 鈴木栄幸）

2014年度第1回編集理事会報告

前回（2014年11月15日）以降、この間に編集理事会は開催されていませんので、「科学教育研究」編集状況の報告のみとする。

1. 新規投稿論文（2014.11.1～2015.1.31）：15編（内訳：和文15編、英文0編）
2. 査読中論文（2015.1.31現在）：29編（内訳：担当編集委員選定中：2編、査読員選定中：2編、査読中（1回目）：7編、総合判定中（第1回目）：1編、改訂稿待ち：9編、査読中（2回目）：7編、総合判定中（第2回目）：1編）
3. 掲載決定論文（2014.11.1～2015.1.31現在）：9編（内訳：研究論文7編、資料1編、プラザ1編（通算合計38-4：2編、39-1：5編、39-2：2編））。

次回、2014年度第2回編集理事会は、2015年3月14日（土）、11:00～14:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成27年1月31日現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2014年 2月	1	0	27	1	0 (38-1) 2 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		4	0
2014年 3月	4	0	24	1	4 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	0		3	0
2014年 4月	4	0	19	1	3 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	1 (38-2) 0		4	2
2014年 5月	5	0	16	0	3 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		5	1
2014年 6月	7	2	18	2	1 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		4	0
2014年 7月	3	0	19	2	1 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		1	0
2014年 8月	3	0	17	1	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		5	0
2014年 9月	8	1	23	1	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		2	0
2014年 10月	22	2	41	3	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		3	0
2014年 11月	4	0	39	3	2 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		3	1
2014年 12月	4	0	29	2	4 (39-1) 1 (39-2)	0 (39-1) 0 (39-2)	0		9	1
2015年 1月	7	0	28	1	1 (39-1) 1 (39-2)	0 (39-1) 0 (39-2)	0		5	1

招待論文については、新規投稿数、審査中論文数に加えておりません

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 221 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：谷塚光典（信州大）	森田裕介（早稲田大）	
委員：渡邊慶子（滋賀大）	久保田善彦（宇都宮大）	鈴木 誠（北海道大）
荻原 彰（三重大）	清水美憲（筑波大）	望月俊男（専修大）
谷田親彦（広島大）	辻 宏子（明治学院大）	
幹 事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会